

## ～輝きの子育て～

### 『先生たちがえらんだ子どもに贈りたい120の言葉』

ひとはそれぞれ、初めから「わたし」にうまれるのではなく、  
少しずつ少しずつ「わたし」になっていくものだろう。  
あるがままの「わたし」を受け入れ、  
さらに望ましい「あるがままのわたし」を創っていく。

『わたし、を生きる』 落合 恵子 海竜社

こう言われるとなんだか、ほっとしますね。人の誕生、それは自分さがしの旅のはじまりです。  
人生には、楽しいこともあれば苦しくつらいこともあります。のっぴきならない試練にぶつかることもあるでしょう。そんなとき、友だちや先生、兄弟姉妹、家族の助けをかりながら一つひとつ乗り越えて新しい「わたし」をつくっていくのでしょうか。ときには挫折することもあるでしょう。それも現在進行形の「あるがままのわたし」として受け入れましょうということです。「わたし」を素直に認めると安心して生きられるような気がしますね。

あたしの中にはたくさんのアンがいるんだわ。  
だからあたしはこんなやっかいな人間なんじゃないかしらって思うことがあるのよ。  
もしあたしが、たった一人のアンだとしたらもっとずっと楽なんだけど、  
でも、そうしたらいまの半分もおもしろくないでしょうよ。

『赤毛のアン』 モンゴメリ松岡花子訳 新潮文庫

誰もが、たくさんの自分を持っていて、やさしい自分、いじわるな自分、弱虫だったり、強がりだったり—でも、いろいろな面があるからこそ、人には、魅力があるのだということに気づかせてくれます。

自分を嫌いになりそうなときでも、嫌な部分もいい部分も、全部ひっくるめて自分なんだと受け入れてあげたら、もっと自分が好きになれるかもしれません。友だちのいろいろな面を見つけられたら、大好きな人がいっぱいになるかもしれません。そうしたら、きっとアンのようにおもしろい毎日が送れることでしょう。

### ゆっくり大人になればよい

『ゆっくり大人になればよい』 坂上 佑子 文化書房博文社

子どもたちは親や教師、大人たちから「早く、早く」と目先のことを追い立てられるように生活しています。中には「早くやらなければ」という意識が強迫観念のように重荷となり、登校拒否や家庭内暴力等、問題行動を引き起こしてしまう子すらいます。ほんとうは、多くの子どもたちは、自分のペースを大切にしながら、生活したいと願っているはずで、そんなとき「ゆっくり大人になればいいんだよ」といってあげるとどれだけの子がすくわれるかわかりません。

片野 英子

『先生たちがえらんだ子どもに贈りたい120の言葉』 佐々木 勝男 編著より 抜粋